

災害科学研究所 平成 26 年度特別講演会
巨大地震災害とどう向き合うか
— 東日本大震災に学び、明日の巨大地震に備える —



主催：(一財)災害科学研究所
後援：(公社)土木学会関西支部
(公社)地盤工学会関西支部
(一社)日本建築学会近畿支部
(一社)近畿建設協会
(一社)建設コンサルタンツ協会近畿支部
CPD(6.5 単位)・CPDS(7unit)認定

2011 年東北地方太平洋沖地震の甚大な被害を経験した我が国は、将来、危惧されている南海トラフ巨大地震による被害をどう軽減するかが問われています。災害科学研究所では、東日本大震災後 3 年経過したこの機会に、東日本大震災報告書を編纂いたしました。これを記念して、東日本大地震の教訓を踏まえて、将来の巨大地震に対して、今後、どう向き合うか、何をすべきかを考える講演会を開催いたします。本講演会が対象とする分野は多岐に亘っており、各分野の取り組み方は異なりますが、それらを横断的に知ることは、総合地震防災対策を講ずる上で、その意義は非常に大きいと考えられます。

皆様奮ってご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

記

- 日時：平成 27 年 2 月 16 日（月）9:10～17:00 （受付開始 8:40）
- 会場：大阪大学中之島センター 10F メモリアルホール
- プログラム

9:10 - 9:20	開会挨拶	災害科学研究所 理事長	松井 保
9:20-10:00	「巨大地震による地震動特性」	京都大学防災研究所 教授	岩田知孝
10:00-10:40	「巨大地震における津波の特性」	独立行政法人港湾空港技術研究所 アジア・太平洋沿岸防災研究センター 副センター長	富田孝史
10:40-11:20	「大震災で得た耐津波構造物への教訓」	大阪大学大学院 教授	青木伸一
11:20-12:00	「巨大地震におけるライフライン被災の特徴と地震・津波対策の新展開」	神戸大学名誉教授	高田至郎
12:00-13:00	休憩		
13:00-13:50	特別講演 「南海トラフ巨大地震に向けた国土交通省の取組み」	国土交通省近畿地方整備局 局長	森 昌文
13:50-14:30	「巨大地震における盛土の性能を考慮した耐震対策」	大阪大学大学院 教授	常田賢一
14:30-15:10	「巨大地震時における宅地の安心・安全性の確保に向けて」	諏訪技術士事務所 代表	諏訪靖二
15:10-15:30	休憩		
15:30-16:10	「福島第一原発事故——その経緯と今後の課題」	関西大学 教授	小澤 守
16:10-16:50	「災害廃棄物等への対応と復興における調和」	京都大学大学院 教授	勝見 武
16:50-17:00	閉会挨拶	災害科学研究所 震災報告書編纂委員会 委員長	常田賢一
- 参加費：一般 12,000 円、学生 6,000 円（・東日本大震災報告書（要約編 70 頁、本編（CD 版）約 800 頁—多数のオリジナルカラー写真収録） / ・講演資料 / ・消費税を含む）
- 参加申込：参加申込書に必要事項をご記入の上、FAX または電子メールでお申込みください。（定員 150 名；定員になり次第締め切ります）

以上

